



中高生とともに差別と闘う

『日常的な発表を人権学習に』

吉成タダシ



「人権」と教科学習

さて、私の専門教科は何でしょう？卒業して何年も経って、教え子に訊かれる質問。「先生って人権の先生ですよね」教員の免許に、「人権」はありません。

出会った方々によく訊かれる質問。「専門の教科は何ですか？」

「何だと思いませんか？」逆

に訊き返すと。「国語ですか？」

「社会ですか？」

「体育ですか？」

「ザンネン」たいいてい当たりません。最後まで当たらないこともよくあります。

いったい教科の持つイメージと、私の持つイメージとの違いは、何なのでしよう。

正解は「数学」です。「数学」って、人権の世界とは縁遠いものなのでしようか。

常々思います。数学の授業で人権教育をどう実践するか――。

「『数学』と『人権』？？」とと思われるかもしれませんが、数学の授業にもど

の授業にもどる授業にも、人権の視点は持っているし、持っていないといけない、と思っ

ています。具体的に。

日常的に発表すること
数学の授業で子どもたちに質問を投げかけたとき、多くの場合は指名をしません。手を挙げた子を当て

ます。みなさんの周りには、縦筋、横筋、

斜め筋で順番に指名していた先生、

いませんでしたか。それはそれでゲーム的で面白いのかもしれませんが、

も、順番に当てられて、分からない問いに答えられず、イヤな思いをしたことのある私としては、同じような思いをさせたくないし、できる

ことなら頑張って、堂々と自分の考えや意見を述べられる人間になって欲しいと思うので、そういったやり方はしません。

四月。「だから、安心して授業を受け、自らの考えや意見が言えるようになっていこう」と話します。

いや、ちょっと待てよ。そもそも中学生が自分から手などを挙げて発表なんかするの、現代の中学生はもつとクールでドライなのでは、と思わ

れている方もいるかもしれません。ところがどっこい、案外(?) ところでもないものです。「ハイ！」とこちらが先に元氣よく手を挙げると、

釣られて手を挙げてしまう子ども結構いるのです。「ノリ」のような感覚の

世界に子どもを引き込む術は、学校の授業においても大切なことです。何しろ、先生も一応、「しゃべり」を作業にしているわけですから。

いずれにしても、まずは「自分から考えや意見を述べること」を、日常的な目標とします。

日常的な発表を人権学習に
人権学習のときも、もちろん生徒

からの発表が必要となります。けど、問う内容にもよりますが、答え

が明解でないぶん、数学ほど手は挙がらなかつたりします。だからと

いって、強制的に当てられ、無理矢

理発表させられ、表面上の、当たり障りのない、先生の顔色をうかがい

ながらの、正しそうな発言というのは、聞いていて耳障りの良いものはありません。

それとは違って、自分の考えや意見、思いを、覚悟を決めて発表して

くれる場面が人権学習にはあります。またその発言に比べて、思いを返そうと勇氣を振り絞り、手を挙げてくれる子がいる場面もあります。

そんなとき子どもたちはたいいてい、顔が熱くなつた
何を言っているのか分からなくなつた
掌が汗でびちびちよになつた
発表して座つたらスッキリした
発表する子の気持ちがよく分かつた
と後述してくれま

す。この感覚を出
来るだけ多くの子に味わわせたいと思っ

ています。
どんな些細と思われ

るような発表も、発表し慣れない子にすれば似たような感覚になります。清水の舞台から飛び降りるような覚悟で発表しようという子は、まさにこの感覚です。

特に、自分のプライバシーに関わる、触れたくはないけど触れずには

いられないような発言をするときって、こんな感覚になるのです。

今まさに目の前で差別が起こっているとき、どうするか。黙って見過ごしてしまわないで

しょうか。そんなときのために、「自分の思いを述べる」ことが当たり前となるようなトレーニングをさせておきたいのです。手を挙げての発表にこだわる理由はそこにあります。

人生は選択の連続である

「日本人はあまり自己主張をしない」と言われることがあります。普通に生活して

るぶんには、それでもいいかなと思います。でも、これだけ国際化とか、国際競争力とか言

われている現代、様々な外国人とチームを組んで何かをする場面が多くなつてきている現代、そういうわけにはいきません。

それ以上に、人権・差別問題に関わって、「言うべきときには言う」必要性があるならば、なおさら

そういう能力を高めておく必要があります。何か、仰々しい話になつてしま

いましたが、そんな特別な場面に限つた話ではありません。「人生は選択の連続である」わけですから、高校や大学などの進路選択のとき、就職選

択のとき、恋愛や結婚の選択のときなど、生きていけば必ず、大なり小なり人生の岐路に立たされるもので

す。そのとき、両親や友人、周囲のアドバイスを聞くことはあつても、

最終は自分の頭で考え、行動できる人間であつてほしいと思

います。でないと、ちょっとした不都合があれば、すぐに他人のせいにしてしまつて欲しくありません。